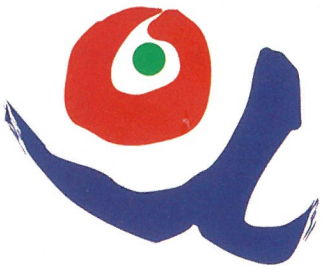
沖縄の援護のあゆみ

―沖縄戦終結50周年記念

沖縄県生活福祉部援護課

沖縄の援護のあゆみ

―沖縄戦終結50周年記念



沖縄県生活福祉部援護課



発刊にあたって

この度、太平洋戦争・沖縄戦終結５０周年を記念して、戦後５０年間の援護業務の変遷・事業実績等を記録した記念誌を発行することになりました。

本県は、先の大戦において悲惨な地上戦の場となり、軍人、軍属だけでなく、幼い子どもや女性、お年寄りに至るまで多くの住民が戦闘に巻き込まれ、尊い生命を失いました。また、南洋諸島等の外地ににおきましても多数の県出身者が犠牲となりました。

沖縄戦等における軍人、軍属、準軍属の戦争犠牲者に係る処遇につきましては、沖縄に日本の施政権が及ばなかった昭和２７年に本土で施行された「戦傷病者戦没者遺族等援護法」から遅れること一年後の昭和２８年から事務が開始されました。また、準軍属につきましては昭和３３年の同法の改正により障害年金や遺族給与金が支給されるようになりました。

援護業務は、戦没者遺族や戦傷病者等に対する諸般の援護事業、山野に眠る戦没者の遺骨収集をはじめとする慰霊事業、さらには、旧軍人等に係る恩給、叙位叙勲に関する業務のほか、沖縄戦被災者補償等極めて広範、かつ、膨大な事業を遂行してまいりました。

沖縄戦終結５０周年を過ぎても、戦後処理問題をはじめ沖縄の援護業務は未だ絶えることはありません。本記念誌が、これからの援護業務を進めるうえで道標として役立つことを念じてやみません。

これまでの関係者の皆様の御尽力に対し心から感謝申し上げ、発刊の言葉といたします。

平成８年３月

沖縄県知事　　大田　昌秀



発刊によせて

今般、沖縄県が、終戦五十周年の節目にあたり「沖縄戦終結五十周年記念誌」を発刊されますことは誠に意義深いことであり、沖縄県戦没者遺族を代表する者として、衷心より敬意を表するものであります。

五十年前、沖縄県民が経験した、あの悲惨な戦争の体験を、歴史的教訓として広く後世に伝え、また、平和の尊さを世々に至るまで語り継ぎ、平和希求の心を人々の間に培って行く上で、誠に時宜を得たことであり、崇高な平和推進運動の一環と認識するものであります。遺族会を代表するものとしては、我が沖縄県は幾重にも申し上げなければならない多くの悲しい歴史があります。中でも地上戦闘に巻き込まれた老人や赤子の犠牲、学童疎開船の悲劇等は犠牲となった魂の嘆き悲しみが、もの言わぬが故に、その痛ましさは底知れぬ深いものがあります。終戦から半世紀、語りつくされたはずの戦争の悲しい体験は、いまだに跡を絶つことなく語り継がれております。

この記念誌が県民のみならず、全国民の目にふれ、戦争について、平和について、追体験のよすがとなり、国民の平和学習に大いに役立つものと確信しております。

沖縄戦に関するあまたの資料に加えて、我々は貴重な一冊を新たに手にすることを誇りに思い、ここにお慶び申し上げる次第であります。

特に、援護課には「戦傷病者、戦没者遺族等援護法」の制定、施行に当たり、複雑多岐に亘る援護業務の推進にあたっておられる事に対し深く感謝申し上げ、発刊のことばといたします。

平成８年３月

沖縄県遺族連合会会長　座喜味　和則


沖縄戦終結50周年記念
沖縄全戦没者追悼式

